
絶滅危惧種 マルバウマノスズクサ (ウマノスズクサ科)

編集子



図版説明

絶滅危惧種 マルバウマノスズクサ (ウマノスズクサ科)

Aristolochia contorta Bunge

環境庁 絶滅危惧 I B 類 EN

新潟県における分布は、佐渡（本間 2002）と加治川村（現新発田市）貝屋（池上目録、未公開）に知られている。その後、岩船郡朝日村（現村上市）に分布を確認した。畑の隣接地に群生していたが、開墾される可能性が高かったので、一部移植して栽培している。2007・2008・2009年現地を訪れた際に生育を確認しておきたいと思い、捜してみたが、土地が改変された後で再確認ができないままである。佐渡島や貝屋も注目して調査しているが、確認していない。新潟県では、野生絶滅の可能性が高い。幸い移植した株は、健在であって例年花を咲かせている。2008年には、夏以降ジャコウアゲハの食害で果実が成熟できなかった。2009年は成熟したので、種子を播種して発芽するか観察中である。ウマノスズクサと異なり、葉腋に数個の花を咲かせる。

[文献]

本間建一郎 (2002) 佐渡島の植物 (羊歯・種子植物) [新潟県植物分布記録 5] 新津植物資料室

北見秀夫によると羽茂町:村山・小泊、赤泊村:外山、新穂村:田野澤、両津市:梅津に分布することが記録されている。



写真1 葉腋に数個の花
(2009. 8.12)



写真2 葉腋に2個の開花
(2009. 6.30)



写真3 1個の花 (2009. 6.30)



写真4 種子×7 (2009.11. 2)



写真5 春先芽生えたばかりの
茎葉 (2008. 5. 3)